

【テーマ1】 国立大学法人兵庫教育大学

多機関連携・協働による学習観・授業観の転換を担う教師の育成に対応した
先導的教職科目の開発研究

調査の概要

◆課題認識

- ・個別最適な学びや協働的な学びの実現を先導する教師の育成は喫緊の課題となっている。
- ・教員養成に関するカリキュラムは、不易部分を維持しつつ、社会的な背景に対応するよう適宜改善されているものの、それは建て増しの改善に終わっている。
- ・育成を目指す教師像から再検討し、グランドデザインを見直す時期に来ている。

◆調査研究の目的

- ・多機関連携・協働により、学習観・授業観の転換を担う教師の育成に対応した先導的な教職科目の開発およびその質保証の仕組みを構築すること。

◆調査研究の方法

- ・先導的な教職科目に関しては、連携大学の学生、現職教員や教育委員会指導主事への実態調査及びニーズ調査を踏まえて開発する。
- ・教職科目として単位化する仕組み、及び当該教職科目を実施する際の目標達成状況や仮説の検証結果を当該教職科目の見直しに反映させる仕組みを、連携大学や教育委員会と連携して構築する。

取組のポイント・成果

1. 先導的な教職科目の開発 研究Ⅰ
 - ①学習科学に関連した先行研究の整理
 - ②学生、現職教員、指導主事等に対する実態およびニーズ調査（図1）
 - ③新・兵庫教育大学教員養成スタンダードとして育成すべき教師像を策定
 - ④先導的な教職科目の開発
 - ・先端技術・教育データ活用に関する科目
 - ・STEAM教育に関する科目
 - ・インクルーシブ教育に関する科目
 - ・開発した科目構成、科目内容に関する調査
2. 開発した科目の実装・改善に関する仕組みの構築 研究Ⅱ
 - ①先進的取組を行っている大学等における目標設定等に関する調査
 - ②科目改善の仕組みの構築（多機関連携、アジャイル型の開発・実装・改善システムの構築）

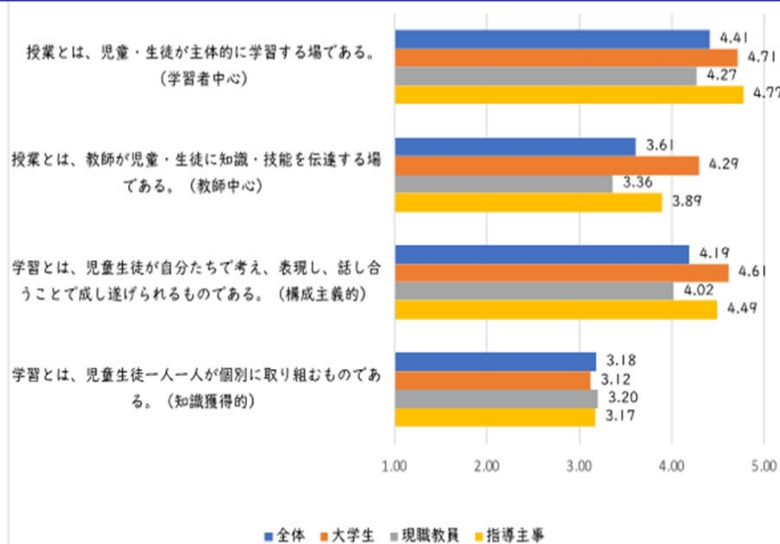


図1 教授・学習観に関する結果

今後の課題

1. 学習観や授業観の転換を進める上で最も難しいことの一つに、大学教員の意識改革がある。学習観や授業観の転換のためには、学習者観の転換が必要である。一体的改革推進事業の研究Ⅰで実施した調査では、学部学生、現職教員共に「児童・生徒が教えられないと何もできない」存在だと思っている割合は相対的に低い。一方で、学校では学習者中心の授業が普及していない実態がある。この傾向は大学教員にも当てはまると考えられる。そのため、教職課程におけるFDモデルの開発（人材育成・能力開発目標の設定）が重要になる。
2. 今後、連携機関との間で、開発、実装、評価・改善のサイクルをアジャイル型手法により実施しつつ、社会的インパクト評価のためのツール開発を行う。提案した社会的インパクト評価のロジックモデル仮案をより精緻化し、また、直接介入が難しい中間アウトカム、最終アウトカムの評価方法の工夫が課題である。